

## II 博物館事業の概要

### 1. 常 設 展

常設展示を構成する資料表

区 分	実物資料 標 本 類	ジオラマ 機器模型類	カラー透視写真 および写真	図 板	計
地 学	685	22	13	28	748
生 物	1,277	4	29	37	1,347
考 古	630	4	6	22	662
民 俗	235		20	17	272
美 術	延 84				84
史 料	延 81		19	5	105
計	2,992	30	87	109	3,218

#### (1) 地学展示室 (258 m<sup>2</sup>)

- ・本県の地形と地質の全貌と特徴を各種の模型で展示。
- ・県内の地質時代の出来事を岩石の分類と偏光投影観察装置を使用し解説。
- ・各地質時代の化石（三葉虫、アンモナイトほか県内外の化石）。
- ・古生物を中心にした各地質時代の景観復元ジオラマ。7景。
- ・鉱物の特性を結晶系と化学組成分類にて解説、また県内外の有用鉱物を鉱床と関連づけて展示。
- ・温泉の地下地質と湧出する機構を示す模型。
- ・紫外線の照射による蛍光鉱物の発光実験。
- ・各種ウラン鉱の展示と放射能測定の実験。
- ・砂丘と大山の地質的特徴とその生成発達の解説展示。

#### (2) 生物展示室 (257 m<sup>2</sup>)

- ・大山と砂丘の生物の垂直および水平分布とその特性。
- ・岩礁の生物の生態と分布（ジオラマ）。
- ・中国山地の代表的な植生景観と動物の生態展示（ジオラマ）。
- ・頭足類、甲殻類、魚類の分布解説と分類展示。
- ・オオサンショウウオの卵から成体までの発育過程と飼育展示。
- ・鳥類の生息環境による分類と生態と鳴声を映像による解説。
- ・県内産のけものをはじめ外国産の鳥獣。
- ・貝類の生息環境による分類とくに、海産は南方、北方などの海域別に展示、ほかに陸産、淡水産。
- ・昆虫の分類展示（チョウ、ガ、甲虫、セミ、トンボなど）。
- ・植物の分類展示（樹幹、帰化植物、シダ、海藻、およびキノコ）季節による入れ替え。



考 古 展 示 室

#### (3) 考古展示室 (258 m<sup>2</sup>)

- ・縄文時代の遺物（土器、石器、骨角器）と生活の解説展示。
- ・弥生時代の遺物と時代編年および文化交流などの解説展示。
- ・古郡家一号古墳をはじめ古墳の一括資料の展示。
- ・県内出土の須恵器を時代編年ごとに分類展示。

- ・古墳時代の生活用具の復元展示（かまど三点セットなど）。
- ・県内出土の代表的にはわ（鹿、家、水鳥ほか）の展示。
- ・銅鏡、各種玉類、武具、馬具などの展示。
- ・古麿寺出土の軒丸瓦、仏足、経塚出土の経筒などの展示。
- ・「古代の窓」県内遺跡の発掘調査の概要や出土品による紹介展示。

#### (4) 民俗展示室（257 m<sup>2</sup>）

- ・江戸時代末から明治時代にかけて分布した広間型農家の一部を復元し、生活用具を配して展示。
- ・芸能娯楽用具として、人形芝居、きりん獅子、郷土玩具、影絵などの資料を解説展示。
- ・県内の特徴的な生産用具として海女、機織、製紙、木地をとりあげ、それに使用された用具を中心として解説展示。
- ・灯器、発生史的分類により初期の電球までを展示。
- ・日用品、交易、化粧、食器、その他日用品の分類展示。
- ・つのだる、婚礼に使用された各種つのだるとほかい等。
- ・年中行事、県内の代表的な民俗行事を写真と資料によって季節ごとに紹介。

#### 展示日誌

- 4.1 考古 「古代の窓」浜坂横穴群出土の土器32点、パネル5点展示。
- 4.30 民俗 「年中行事」虫送り、地藏盆、霜月祭のカラーコルトン、虫送り、万灯、もひとりの写真を展示。
- 5.9 考古 圭頭1点、環頭1点を「郷土の名刀展」へ出陳のため撤去。
- 5.31 地学 ナウマンゾウの牙、修理のため撤去。
- 6.10 生物 ソウギョを撤去。リュウグウノツカイを展示。
- 9.27 生物 アカイタケ等5点を撤去。ツキヨタケ等秋のキノコ5種を展示。
- 10.31 民俗 「年中行事」神牛王授け、道祖神祭のカラーコルトン、力餅、くだがい、鎌うちの写真を展示。
- 11.17 生物 おしば展示パネル、帰化植物3点、羊歯植物6点を入れ替え展示。
- 1.6 考古 「古代の窓」津ノ井地区の古墳をテーマに赤坂1号墳出土の鉄器類、杉崎29号墳出土の須恵器、広岡地区内出土の須恵器を展示。

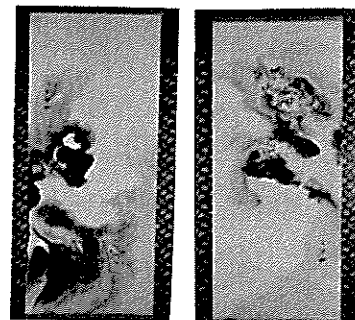
#### (5) 美術展示室（313 m<sup>2</sup>）

- ・彫刻…平安時代以降の国・県指定の仏像を中心に展示。
- ・絵画…鎌倉時代の仏画から江戸時代の藩絵師等の秀作を展示。
- ・工芸…奈良時代以後の国・県指定等の工芸品、ならびに江戸時代の本県ゆかりのある刀剣、陶磁器などを展示。

#### 美術常設展示室 出品目録 ◎重要文化財 ○重要美術品 ●保護文化財

##### 《絵画》

島田元旦	紙本	屏風	花鳥図一双	江戸	個人蔵
根本幽峨	〃	〃	楼閣山水図一双	〃	〃
土方稻嶺	〃	〃	猿之図一双	〃	〃
〃	〃	軸	牡丹小禽図(二幅)	〃	〃
〃	〃	〃	牡丹孔雀図	〃	〃
〃	〃	〃	風雪三願図	〃	〃
〃	〃	〃	巖上双亀図	〃	〃



雲竜図 土方稻嶺作

土方稻嶺 紙本 屏風 遊亀図一双 江戸 個人蔵  
 〃 軸 東方朔図(三幅) 〃 〃  
 〃 紙本 〃 雲竜図(二幅) 〃 館蔵品  
 〃 〃 屏風 猿之図一双 〃 個人蔵

土方稻嶺 紙本 屏風 遊亀図一双 江戸 個人蔵  
 正橋適処 〃 〃 吉野松島図一双 〃 〃  
 中島菜刀 〃 〃 麒麟獅子一双 〃 〃

《仏像》

- 鉄造 聖観音立像 鎌倉 西伯町加祥区
- 〃 十一面観音立像 〃 〃
- 〃 光背 〃 〃
- 木造 金剛界大日如来坐像 平安 永福寺 若桜町
- 〃 胎藏界大日如来坐像 〃 〃 〃
- ◎ 〃 日光菩薩立像 〃 長楽寺 日野町

- 木造 不動明王坐像 鎌倉 大雲院 鳥取市
- ◎ 〃 蔵王権現立像 平安 三仏寺 三朝町
- 〃 弘法大師坐像 江戸 泊村石脇
- 〃 女神像 平安 三仏寺 三朝町
- 〃 延命観音坐像 新興寺 八束町
- 〃 蔵王権現立像 鎌倉 観照院 岩美町

《仏画》

- 絹本 十二天画像(十二幅) 室町 豊乗寺 智頭町
- 紙本 十二天画像(十二幅) 〃 〃 〃
- ◎ 〃 金字法華経卷二、卷四 鎌倉 大雲院 鳥取市
- 絹本 不動明王画像 〃 個人蔵

- 絹本 不動明王画像 鎌倉 豊乗寺 智頭町
- 〃 不動明王画像 〃 大安興寺 用瀬町
- 〃 五大明王画像 〃 〃 〃
- 〃 両界曼荼羅図 室町 豊乗寺 智頭町

《工芸》

- 銅製 梵鐘 室町 岩美町網代
- 金銅製 盤 五鈷杵 室町・鎌倉 個人蔵
- 銅製 線刻蔵王権現鏡像 鎌倉 〃
- 〃 懸仏 〃 〃
- 飾太刀拵(3点) 江戸 樗谿神社 鳥取市
- 銅製 磬(3点) 鎌倉・室町 個人蔵
- 〃 水瓶(2点) 室町 〃
- ◎銅製 花綬鸚鵡文鏡 奈良(銘平安)三仏寺 三朝町

- 因久山焼 盃台 江戸 個人蔵
- 〃 太鼓形香炉 〃 〃
- 〃 置物 〃 〃
- 浜坂焼 水指 〃 〃
- 吉成焼 鉢 〃 〃
- 銅製 擬宝珠(2点) 鎌倉 地藏院 関金町
- 因久山焼 鎮司(2点) 江戸 個人蔵
- 銅製 鱈口 室町 清泉寺 国府町

(6) 史料展示室

50年度の展示は、「鳥取藩武芸史」と「開国と鳥取藩」の二つのテーマをとりあげた。

「鳥取藩武芸史」(50年6月～50年12月)

前年度、「藩校尚徳館 — 江戸時代武士の教育 — 」という展示を行なった。「鳥取藩武芸史」の展示は、その続編ともいべきものである。武芸は、太平の世の江戸時代に最もよく発達する。実戦のない時代の武芸の修業目的は、武技の修練以上に徳の涵養が強調される。つまり、武芸修行は武士の人間形成に欠くべからざるものであり、その修業過程は、一つの教授⇄学習の過程であるとの視点もとり入れて展示を構成した。

「鳥取藩武芸史」のテーマは、武芸の奨励・鳥取藩の武士道論・鳥取藩の剣の流れ・武芸の修業という四つの項目によって展示構成した。鳥取藩の武士道論では、藩士上野小平太忠親の「武士言草」をとりあげた。鳥取藩は武芸の盛んなところで、刀・槍だけでも多数の流派が行なわれた。剣術には、雖井蛙流や兎山流等のように鳥取の人によって創始されたものもあった。武芸の発達は多くの流派を生み、さらにその流派の心・技の修練・伝授にも工夫がこらされた。伝書・防具・竹刀・誓詞血判状等の資料でその展開を展示した。

「開国と鳥取藩」(50年1月～51年6月)

「開国と鳥取藩」は、開国・明治維新の流れの中に鳥取藩動向を位置づけてみようとする試みである。テーマは、鎖国と鳥取藩・鎖国下の国際問題・海外への関心・ペリー来航と鳥取藩・鳥取藩の攘夷・反射炉と鳥取藩の海防の六項目で構成した。

朱印船貿易で知られる亀井茲矩のいた因幡も、鎖国以後海外への関心は全くなくなった。鎖国下で、鳥取藩がかかえた国際問題は、日本海の孤島竹島への渡航のことである。1696年、幕府や藩は竹島渡航を禁止したが、幕末になるとまた竹島への関心が高まる。18世紀末になると海防論が盛んになるとともに海外への関心も高まる。ペリーが来航した時鳥取藩は、品川や本牧台場の警備にあたる。藩士たちは、この時はじめて黒船をみておどろいている。藩主池田慶徳は、父徳川斉昭の影響もあって攘夷論者であった。鳥取藩も1863年6月、大阪湾で英国船を砲撃している。海岸線の長い鳥取藩は、沿岸に8ヶ所の砲台を築き、六尾村の反射炉で鑄造した洋式大砲をそなえていた。またその守備に農兵を組織するなど近代的軍備への歩みをはじめている。

## ◎新着資料展示コーナー

分野	テーマ	期間	内容
地学	マングローブの貝 (失われた生物)	5.2～7.7	貝化石 約30点
民俗	イワシ網漁船	7.8～9.23	イワシ網漁船模型 1点
生物	アカウミガメ	9.24～11.7	アカウミガメ 1点 ウミガメの 回遊・産卵場所の図版 1点
民俗	磯舟・イワシ舟	11.8～11.30	漁船模型 2点
地学	ピクノダス魚化石	12.1～2.9	ピクノダス魚化石の標本 1点
生物	ヒメウミガメ	2.10～3.31	ヒメウミガメの剥製標本 1点

## ◎催物

### (1) 日本の野鳥展

会期 昭和50年4月26日～5月9日

会場 第3展示室

愛鳥週間にちなんで日本各地に生息する野鳥について、その生態、分布、形態などを紹介し特に県内の野鳥も位置づけながら展示解説した。

野鳥剥製標本	100点
野鳥生態写真	30点
愛鳥週間入選ポスター	30点
巣箱、給餌台	20点
野鳥研究の文献ほか	10点

### (2) 美術収蔵品展

会期 昭和50年6月17日～7月13日

会場 第3展示室

今回の美術収蔵品展は、前田寛治の代表作「棟梁の家族」(1928年作)購入を機会に昭和48年度以降当館に寄贈、寄託を受けた、彫刻5点、染色1点と、前田寛治作品14点、伊谷賢蔵作品11点、計31点を展示公開した。



棟梁の家族 前田寛治作

### (3) 空から見た郷土写真展

会期 昭和50年9月13日～9月24日

会場 第2展示室

変ぼうする地域の実態を空中写真を中心として紹介したもので、当館の視覚定点資料収集事業の成果の一部を昭和43年と48年を比較対応させながら解説展示した。

空中写真（5000分の1、10000分の1、20000分の1） 76点

昭和22年撮影の空中写真 5点

昭和43年撮影の空中写真 21点

昭和48年撮影の空中写真 50点

展望写真

各市町村撮影による昭和43年、48年の対比写真

立体鏡による空中写真の観察

### (4) 島田元旦展

会期 昭和51年2月24日～3月21日

会場 第3展示室

元旦は江戸時代の画家谷文晁の実弟として江戸に生まれ、京都にのぼり、写生派、南蘋派などを学び、寛政年間、幕府の蝦夷地調査に図取役として参加した。その後鳥取藩江戸留守居役島田図書書の養子となり、藩政にたずさわるかたわら、画筆をとり、南蘋流の濃密華麗な花鳥画を得意とした。

この展覧会は、館に收藏する資料と県内から借用した資料で構成し、特色のある画風を鑑賞するため開催した。

屏風	4件	卷子	1件	計19件
掛幅	13件	冊子	1件	

### (5) 因伯の古絵図展

会期 昭和51年3月27日～4月11日

会場 第3展示室

当館の所蔵する「鳥取池田家史料」の中には、550点余の大小の絵図類がある。昭和48年度からこの絵図のうち、破損のひどいもの等の補修をすすめ、今日まで約60点の補修が完了した。一方、一般からの古絵図に対する公開、閲覧の希望も多いが、大きさや資料の性格上一般閲覧は困難な点が多い。そこで今回、補修の完了したもの、破損の少ないものの中から30点を展示公開した。

今回の展示は、因幡国、伯耆国の国絵図と鳥取、米子などの城下町図や江戸、京都の板行図など都市図を中心に構成した。国絵図は幕府の命令で、郷村帳とともに藩が作成し提出したもので前後4回作成されている。文政期の因伯測量図は、近代地図に近いもので、おそらく伊能忠敬の測量の影響を受けていると思われる。鳥取は近世全期にわたる領内唯一の城下町であり、山陰第一の都市であった。しかし、米子や黒坂、鹿野等近世初期に城下町として出発した町は他にもいくつかあったのである。

この展示を通して、江戸時代の県下の村や町の様子、簡単な地図の発達史が理解できるように構成した。

## 2. 特別展（館主催）

### (1) 郷土の名刀 — その美と歴史 —

主催 鳥取県立博物館

後援 財団法人刀剣博物館 日本海新聞社

会期 昭和50年5月11日(日)～6月1日(日)

会場 第1展示室

入場者 4,092人(有料)

入館料 一般 300円(団体 250円) 高校生 100円(団体80円) 小・中学生50円(団体40円)

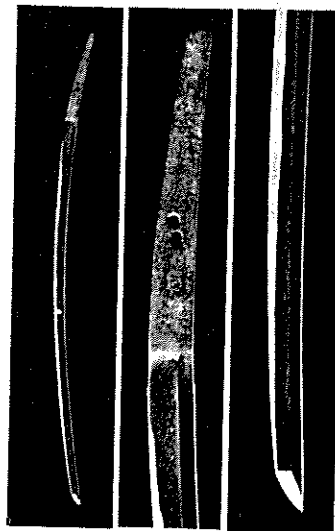
日本刀は武器としてすぐれた機能をもつとともに、それ以上に芸術作品として優秀なことは、世界の刀剣の中でも類のないものである。

中国山地からとれる良質の砂鉄と古くから伝わる冶金の技術は、郷土に数多くの名刀を産み出して来た。

この展覧会は、本県にゆかりの深い刀工の名作を県内外より収集し、系統的に展示して、時代の流れによる刀の変遷と、それぞれの刀工の技術の特色を明らかにし、われわれの祖先が昔から求め続け、そして今もなお生きつづけている古来の美しさを鑑賞しようとするものである。

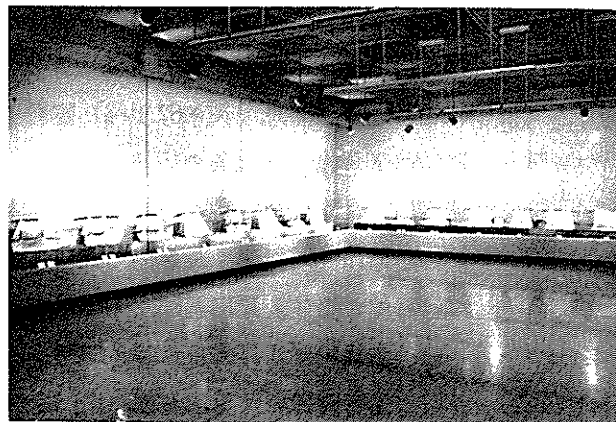
#### 《出品目録》 ◎国宝 ○重要文化財 ◯重要美術品 ●保護文化財

武人埴輪	1点	頭推	2点
直刀	3点	鐔	2点
環頭	2点	他直刀付属品	
圭頭	4点		
○太刀	銘(表)安綱	長さ76.7cm	
太刀	銘(表)安綱	長さ76.5cm	佐野美術館蔵
太刀	銘(表)安綱	長さ75.5cm	刀剣博物館蔵
◎太刀	銘(表)真守造	長さ76.8cm	
○太刀	銘(表)大原真守	長さ70.0cm	
◎太刀	銘(裏)有綱	長さ83.4cm	大山祇神社蔵
◎太刀	銘(表)安家	長さ77.3cm	
◎太刀	銘(表)国宗	長さ79.0cm	
○太刀	銘(表)国宗	長さ67.5cm	
太刀	銘(表)国宗	長さ69.6cm	
◎太刀	銘(表)因州住景長	長さ67.5cm	須佐神社蔵
短刀	銘(表)因州住景長	長さ26.6cm	
太刀	銘(表)因州住景長	長さ67.9cm	佐野美術館蔵
槍	銘(表)宗長作	長さ45.1cm	
槍	銘(表)宗長作	長さ12.2cm	
刀	銘(表)伯州住廣賀作	長さ65.3cm	
刀	銘(表)伯耆國住人見田五郎左衛門尉廣賀		
	(裏)永禄元年八月吉日	長さ68.8cm	
短刀	銘(表)伯耆國津原住見田五郎左衛門尉廣賀作之		
	(裏)永禄三年八月吉日主令山村源佐衛門尉造之	長さ32.1cm	



太刀 銘(表)安綱 佐野美術館蔵

- 脇差 銘(表)伯耆國住道祖尾  
(裏)勘介廣賀作之  
(棟)文禄二二年二月吉日 長さ36.4cm
- 刀 銘(表)伯耆國倉吉住道祖尾藤十郎廣賀作之 長さ70.8cm
- 脇差 銘(表)伯州倉吉七郎左衛門尉廣賀作  
(裏)寛永七年八月吉日 長さ52.8cm
- 短刀 銘(表)伯州住廣賀作  
(裏)弘治二二年二月日 長さ25.3cm
- 太刀 銘(表)伯耆國倉吉住人播磨大掾藤原正綱  
(裏)奉寄進因州東照宮寶前所願成就所 慶安三年庚寅九月吉日 長さ105.3cm 栲谿神社藏
- 刀 銘(表)伯州住冬廣作 長さ70.0cm
- 刀 銘(表)因品鳥取住兼先 長さ63.0cm
- 脇差 銘(表)因幡國住七郎右衛門尉兼先  
(裏)延寶七年八月吉日 長さ54.2cm
- 刀 銘(表)因幡國住藤原兼先 長さ65.1cm
- 刀 銘(表)因品住兼先 長さ69.5cm
- 刀 銘(表)妙一 峯雪入道兼先 長さ68.3cm
- 刀 銘(表)因州住藤原兼先 長さ69.2cm
- 太刀 銘(表)因州臣日置直助尉藤原兼次作  
(裏)文久四年正月吉日 長さ82.3cm
- 太刀 銘(表)因州臣日置藤原兼次作  
(裏)文久四年正月吉日 長さ77.4cm
- 鉾 銘(表)因品鳥取住刀工兼先十二代孫日置兼次作 明治二十年九月吉日 長さ29.0cm
- 太刀 銘(表)信濃大掾藤原忠國  
(裏)慶安二年八月吉日因品於鳥取作之 長さ95.8cm 栲谿神社藏
- 太刀 銘(表)〃 長さ85.3cm 〃
- 太刀 銘(表)〃 長さ82.6cm 〃
- 刀 銘(表)信濃守藤原忠國 長さ67.2cm
- 脇差 銘(表)信濃大掾藤原忠國 長さ46.1cm
- 脇差 銘(表)因州住山本八郎大夫尉藤原忠國  
(裏)寛保元年辛酉八月日 長さ58.8cm
- 脇差 銘(表)信濃大掾藤原忠國 長さ51.2cm
- 刀 銘(表)濱部美濃守藤原壽格  
(裏)寛政六寅年八月日 長さ69.3cm
- 脇差 銘(表)美濃守壽格  
(裏)寛政七年卯二月日 長さ43.8cm
- 刀 銘(表)濱部美濃守藤原壽格  
(裏)寛政六甲寅年八月日 長さ65.6cm
- 脇差 銘(表)濱部美濃守藤原壽格  
(裏)天明八年申二月日 長さ52.2cm
- 短刀 銘(表)壽格



会場風景

- 銘(裏)寛政九年巳八月日 長さ27.0cm
- 刀 銘(表)濱部美濃守壽格父子造之行年六十五才  
 (裏)文化六年八月日眠龍子壽實行年三十三才 長さ70.5cm
- 刀 銘(表)壽國 長さ64.5cm
- 刀 銘(表)濱部眠龍子壽實  
 (裏)天保十年己亥初秋 長さ67.6cm
- 脇差 銘(表)眠龍子壽實  
 (裏)文化十三年八月日 長さ47.4cm
- 刀 銘(表)濱部眠龍子壽實  
 (裏)文政六年八月日 長さ80.6cm
- 刀 銘(表)濱部壽幸卅二歳應好作之  
 (裏)天保六年二月日松山明義帶之 長さ69.5cm
- 刀 銘(表)於江府濱部眠龍子壽秀造之  
 (裏)安政二年二月日 長さ71.9cm
- 刀 銘(表)因州住壽茂  
 (裏)文久元年二月日 長さ70.0cm
- 短刀 銘(表)伯耆国湊住横瀬助七郎真守  
 (裏)寛政十二申八月日 長さ29.2cm
- 刀 銘(表)大和守源真守  
 (裏)文化八歳八月日 長さ65.0cm
- 脇差 銘(表)因幡土植村元一  
 (裏)文化十五年三月日 長さ45.6cm
- 刀 銘(表)因幡土植村元一  
 (裏)天保八年二月日 長さ66.3cm
- 刀 銘(表)因幡世臣三村一貫窟源頼之  
 (裏)文化十二年三月日 長さ68.0cm
- 脇差 銘(表)因幡土三村頼之  
 (裏)文政二年正月日 長さ37.3cm
- 刀 銘(表)伯州米子住曙峯軒吉幸  
 (裏)嘉永七年八月日 長さ71.0cm
- 刀 銘(表)曙峯軒吉幸造之 長さ74.2cm
- 刀 銘(表)伯耆国藤原吉幸  
 (裏)慶應四年二月日 長さ75.4cm
- 刀 銘(表)伯耆国藤原吉幸  
 (裏)明治三年八月日 長さ84.6cm
- 刀 銘(表)一雲齋秀春  
 (裏)慶應二寅正月日 長さ73.8cm
- 刀 銘(表)伯耆國尚春 長さ69.2cm
- 刀 銘(表)伯耆汗入逢坂住元綱作  
 (裏)奉獻金屋子神社宝前慶應四辰八月 長さ90.8cm
- 太刀 銘(表)造於□□包則



銘(裏)元治甲子歳詫間敬敷 長さ 103.5 cm 禅慶院蔵

太刀 銘(表)宮内省御刀鍛冶宮本菅原包則作

(裏)明治三十一年五月吉日 長さ68.5cm

直劔 銘(表)奉納小川貞一、宮本包則

(裏)帝室技藝員宮本包則作 明治四十三年十月吉日 長さ 106.3 cm 三仏寺蔵

#### 鐔・金工品

鐔 (銘) 駿河	2点	因州住正充	2点	小柄 (銘) 因州住大月光正	1点
因州住駿河	6点	因州住正英	1点		
因州住駿河作	6点	因州住正吉	1点	縁 (銘) 坂井美次	1点
駿河卓次	1点	因州住直充	1点		
因州住駿河卓置	3点	因州住直充彫之	1点		
因州住駿河卓幸	1点	因州住美清	1点		
駿河卓良作	1点	因州住正義	2点		
駿河卓随	1点	鳥府住正充	4点		
因幡富正義	1点	無銘(因州鍊)	2点		

太刀拵……7口 (◎大山祇神社蔵1口、●樗谿神社蔵3口、他3口)

刀拵……5口 (因幡拵3口、天光堂作1口、他1口)

槍拵……2口

鎧……2領 (樗谿神社蔵1領、宇倍神社蔵1領)

寒山押形……1巻

鉄山秘書8冊、刀の断面顕微鏡写真、玉鋼 (和鋼記念館)

隅屋鉄山絵巻……2巻 (模本) (県立米子図書館)

野だたら図軸……1幅

新刀辨疑……5冊

太刀下緒結方 (模型) ……8種

鍛刀工程一式……砂鉄玉鋼から鍛冶研ぎまで……森脇正孝氏作

## (2) 鳥取の明治風俗

主催 鳥取県立博物館

会期 昭和50年8月2日(土)～8月31日(日)

会場 第1展示室、第2展示室

入場者 8,141人 (有料)

入館料 一般 200円 (団体 150円) 高校生 100円 (団体80円) 小・中学生50円 (団体40円)

わが国が近代国家として歩みはじめてから1世紀を経過した。この出発にあたって多くの西洋文物をとり入れ、新しい産業、文化を創り出した。この近代化の波は、郷土鳥取にも大きな影響を与え、人々の考え方も、生活の様式も次第に変わっていった。

この特別展では、このような現代の直接的源流としての明治文化を、当時の社会情勢を背景にしながらとらえ、現在とのつながりを考えようとするものである。

《テーマと展示資料》 展示点数 757点

・明治維新と鳥取県

太政官高札、初代権令辞令、県治要領、北海道移住者名簿  
弓が浜開拓農具、松田道之の礼服 ほか

• 近代教育のはじまり

学制、教科書、掛図、教育勅語、卒業証書、試験成績表、  
生徒作品、制服、石盤、棟札、鬼瓦 ほか

• 子供のくらし

幻灯器、ひな人形、ねむり人形、鳥取の軍艦、兵隊人形、  
ポペン、のぞき、家族合わせ、菓子 ほか

• 商業の発達

紙貨幣、チラシ、看板、写真機、時計、石油ランプ  
散髪用具、預金預り証、煙草定価表 ほか

• 農業と新しい産業

千歯、太一車、田植定規、プラク、養蚕掛図、まゆ、  
緋織物、糸繰機、共進会の賞状とメダル ほか

• 交通の発達

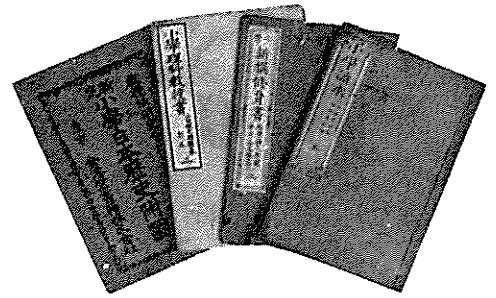
人力車、代八車、第1号機関車と客車（模型）  
鉄道運賃時刻表、鉄道ランプ、鉄道画報 ほか

• 通信の発達

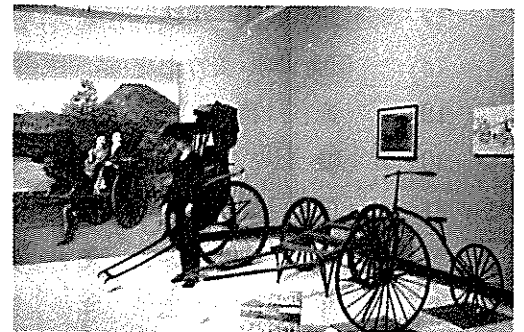
郵便箱、郵便局長辞令、郵便配達夫制服、電話電信機、  
電話番号一覧表、郵便集配風景パネル ほか

• 町や村の景観（写真）

鳥取市街、米子町役場、倉吉町市街、西伯郡役所、  
泊村、岩井村、日露戦争祝賀凱旋門 ほか



教科書



会場風景

(3) 鐵 齋

主 催 鳥取県立博物館

会 期 昭和50年10月18日(土)～11月9日(日)

会 場 第1展示室、第2展示室、第3展示室

入場者 9,847人(有料)

入館料 一般 300円(団体 250円) 高校生 100円(団体80円) 小・中学生50円(団体40円)

富岡鉄斎は、1836年京都の商家に生れ、幼い頃から学問を志し、和漢の書数万巻を読み、そのかたわら明清の南画をはじめ、わが国各派の画法を修得して独自の画風をつくりだした。作品のすべてが深い学問と高い教養に裏付けされ、形式、流行に走らず、心のおもむくままに自由奔放で、迫力と生彩に富み、世界的な画家として、国際的にも高く評価されている。

この展覧会は、鉄斎の若い時代から独創的境地を拓く晩年に至る作品のうち、制作年の明らかなもの100点余を選んで展示した。

《出品目録》

1	烟霞幽情図	1幅	1864(元治1)作
2	名勝十二月図	1幅	1866(慶応2)作

3	花 瓶 図	2 曲 1 隻	1867 (慶応3) 作
4	奴 図 蓮 月 尼 賛	1 幅	1867 (慶応3) 作
5	人 勝 図 蓮 月 尼 賛	1 幅	1868 (明治1) 作
6	竹 画 賛 双 幅	2 幅	1869 (明治2) 作
7	養 蚕 ・ 農 作 図	1 幅	1869 (明治2) 作
8	壳 柑 者 図	1 幅	1872 (明治5) 作
9	溪 山 真 楽 図	1 幅	1874 (明治7) 作
10	月 瀬 図	1 幅	1875 (明治8) 作
11	蝦 夷 富 士 ・ 霧 島 真 景 図	6 曲 1 双	1875 (明治8) 作
12	日 本 絵 図	1 幅	1876 (明治9) 作
13	富 嶽 絶 頂 図	6 曲 1 隻	1876 (明治9) 作
14	漁 樵 問 答 図	1 幅	1877 (明治10) 作
15	船 上 山 還 幸 図	1 卷	1877 (明治10) 作
16	漁 父 打 網 図	1 幅	1880 (明治13) 作
17	通 天 紅 葉 図	1 幅	1822 (明治15) 作
18	田舎青味・養竹山房・清居医俗図	3 幅	1883 (明治16) 作
19	赤 穂 義 士 像	8 曲 1 双	1883 (明治16) 作
20	漁 隠 図	1 幅	1884 (明治17) 作
21	正 成 朝 臣 像	1 幅	1884 (明治17) 作
22	溪 山 真 楽 図	1 幅	1889 (明治22) 作
23	雪 舟 逸 事 卷	2 卷	①1890(明治23)作 ②1889(明治22)作
24	北 野 大 茶 湯 図 卷	1 卷	1890 (明治23) 作
25	湘 君 図	1 幅	1894 (明治27) 作
26	楠 妣 庵 図	1 幅	1894 (明治27) 作
27	天 保 九 如 章 図	1 幅	1896 (明治29) 作
28	仏 説 摩 訶 酒 仏 妙 楽 経	1 卷	1898 (明治31) 作
29	群 僊 祝 寿 図	4 面	不詳
30	桃 華 僊 館 図 卷	1 卷	1902 (明治35) 作
31	五 岳 真 形 図 卷	1 卷	1903 (明治36) 作
32	名 所 十 二 景 図	6 曲 1 双	1904 (明治37) 作
33	落 車 図	1 幅	1904 (明治37) 作
34	武 陵 桃 源 ・ 蓬 萊 僊 境 図	6 曲 1 双	1904 (明治37) 作



聚沙為塔 図

35	松 芝 剛 勁 図	1 幅	1905 (明治38) 作
36	お 多 福 図	1 幅	1906 (明治39) 作
37	寿山福海・神仙採薬図	2 幅	1907 (明治40) 作
38	薬 王 菩 薩 像	1 幅	1912 (明治45) 作
39	静 観 楽 事 帖	1 帖	1914 (大正3) 作
40	東 瀛 神 境 図	1 幅	1915 (大正4) 作
41	休 師 訪 入 貫 図	1 幅	1915 (大正4) 作
42	菊 花 図	1 幅	1915 (大正4) 作
43	多 福 多 寿 多 男 子 図	1 面	1916 (大正5) 作
44	安 心 立 命 詩 書	1 幅	1916 (大正5) 作
45	大 江 捕 魚 図	1 幅	1916 (大正5) 作
46	遠 山 雪 景 図	1 面	1917 (大正6) 作
47	蘇 子 笠 履 図	1 幅	1917 (大正6) 作
48	聚 沙 為 塔 図	1 面	1917 (大正6) 作
49	撥 雲 訪 友 図	1 幅	1917 (大正6) 作
50	白 居 易 問 鶴 詩 書	1 幅	1917 (大正6) 作
51	東 瀛 僊 苑 図	1 幅	1918 (大正7) 作
52	奈 良 八 重 桜 図	1 面	1918 (大正7) 作
53	鍾 馗 嫁 妹 図	1 面	1918 (大正7) 作
54	角 力 図 写 芭 蕉 句 意	1 面	1918 (大正7) 作
55	山 高 水 長 図	1 幅	1918 (大正7) 作
56	盧 仝 喫 茶 図	1 面	1919 (大正8) 作
57	伏 魔 大 帝 関 雲 長 像	1 幅	1919 (大正8) 作
58	読 書 立 志 図	1 幅	1920 (大正9) 作
59	懷 素 書 蕉 図	1 幅	1920 (大正9) 作
60	不 盡 山 画 叢	1 卷	1920 (大正9) 作
61	嬾 残 喫 芋 図	1 幅	1920 (大正9) 作
62	南 極 寿 老 星 図	1 幅	1920 (大正9) 作
63	歳 寒 二 雅 図	1 幅	1920 (大正9) 作
64	笑 傲 煙 霞 図	1 幅	1920 (大正9) 作
65	浮 島 原 晴 景 図	1 幅	1920 (大正9) 作
66	桃花図蓮月尼短冊貼交	1 幅	1920 (大正9) 作
67	丈 夫 心 事 二 行 書	1 幅	1920 (大正9) 作
68	布 袋 遊 戯 図	1 幅	1921 (大正10) 作
69	吉 野 乃 面 影 図	1 幅	1921 (大正10) 作
70	盆 蘭 図	1 幅	1921 (大正10) 作
71	教 祖 渡 海 図	1 幅	1921 (大正10) 作
72	静 坐 息 機 図	1 面	1921 (大正10) 作
73	仿 米 岳 峙 淵 渟 図	1 帖	1921 (大正10) 作
74	菖 蒲 節 図	1 幅	1921 (大正10) 作
75	羅 漢 図	1 面	1922 (大正11) 作

76	魁	星	閣	図	1	幅	1922 (大正11) 作						
77	如	南	山	寿	図	1	幅	1922 (大正11) 作					
78	東	坡	閑	居	図	1	幅	1922 (大正11) 作					
79	吉	祥	聚	叢	図	1	幅	1923 (大正12) 作					
80	観	瀑	滌	心	図	1	幅	1923 (大正12) 作					
81	寿	老	飲	醉	図	1	幅	1923 (大正12) 作					
82	普	陀	落	山	観	世	音	菩	薩	像	1	幅	1923 (大正12) 作
83	杏	花	村	莊	図	1	面	1923 (大正12) 作					
84	自	詠	和	歌	書	1	幅	1923 (大正12) 作					
85	松	風	羅	月	書	1	面	1923 (大正12) 作					
86	福	内	鬼	外	図	1	幅	1924 (大正13) 作					
87	猿	猴	捉	月	図	1	幅	1924 (大正13) 作					
88	寿	老	人	図	1	幅	1924 (大正13) 作						
89	花	中	君	子	図	1	面	1924 (大正13) 作					
90	聖	者	問	答	図	1	幅	1924 (大正13) 作					
91	桃		鶯		図	1	幅	1924 (大正13) 作					
92	富	士	山	図	1	面	1924 (大正13) 作						
93	富	士	山	図	1	面	1924 (大正13) 作						
94	鶯	宿	梅	図	1	面	1924 (大正13) 作						
95	富	而	不	驕	図	1	面	1924 (大正13) 作					
96	瓶		菊		図	1	面	1924 (大正13) 作					
97	能	因	法	師	図	1	幅	1924 (大正13) 作					
98	立	身	木	図	1	幅	1924 (大正13) 作						
99	昇	天	龍	図	1	幅	1924 (大正13) 作						
100	春	光	庵	書	1	面	1924 (大正13) 作						
101	喜	寿	書	沙	鍋		1912 (大正1) 作						
102	松	竹	梅	靈	芝	絵	料	紙	文	庫		1915 (大正4) 作	
103	松	芝	不	老	絵	文	台					1915 (大正4) 作	
104	仿	銅	器	式	桐	香	炉					1919 (大正8) 作	
105			槌									1924 (大正13) 作	

遺愛品 (筆・硯・外套など25点)

(注) 11、13、29、34は個人所蔵 45は東京国立博物館蔵 遺愛品は富岡家蔵

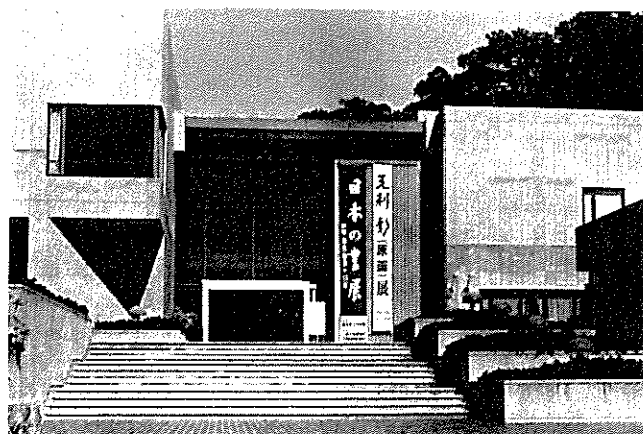


### 3. 館外主催展

展覧会名	期 間	内 容	入館者数	主 催 者
行動美術展	50.4.5 ~ 4.13	絵画 101点 彫刻 8点	3,235人	行動美術協会 日本海新聞社
古徳博美写真作品展	50.4.8 ~ 4.13	写真 51点	1,607	古徳 博美
現代工芸中国会展	50.6.8 ~ 6.14	陶器、染織等工芸品 71点	1,302	現代工芸美術家 協会中国会
鳥取大学開学記念展	50.6.15 ~ 6.21	絵画、彫刻、染織、書、写真 111点	799	鳥取大学
日本の書展	50.9.8 ~ 9.11	書 207点	1,454	山陰中央新報社
毛利 彰原画展	50.9.14 ~ 9.24	イラスト	4,113	毛利 彰
鳥取県美術展	50.10.1 ~ 10.6	日本画、書、版画、洋画 工芸、写真、彫刻 318点	6,287	鳥取県教育委員会
抱海HAWAII個展 記念書展	50.12.6 ~ 12.10	書(額、軸、屏風) 55点	827	柴山 抱海
鳥取県高校美術展	51.1.11 ~ 1.17	絵画 129点 デザイン工芸 90点	770	鳥取県高校教育 研究会美術部会
山陰二科公募写真展	51.3.2 ~ 3.7	写真 153点	1,800	山陰二科会
鳥取県写真家協会展	51.3.16 ~ 3.21	写真 254点	1,018	鳥取県写真家協会
合 計			23,212	



行動美術展



日本の書展・毛利 彰原画展

### 4. 教育普及活動実施状況

博物館活動の一環として館内外において、天体観望会、観察・見学会、講座・講演会、映写会を開催した。

事業名	月日	内 容・場 所	講 師	参加者
天体観望会	4.19(土)	春の星座観望会 当館前庭	当館学芸員	6
	7.19(土)	夏の星座観望会(1) "	"	115
	8.2(土)	夏の星座観望会(2) "	"	126

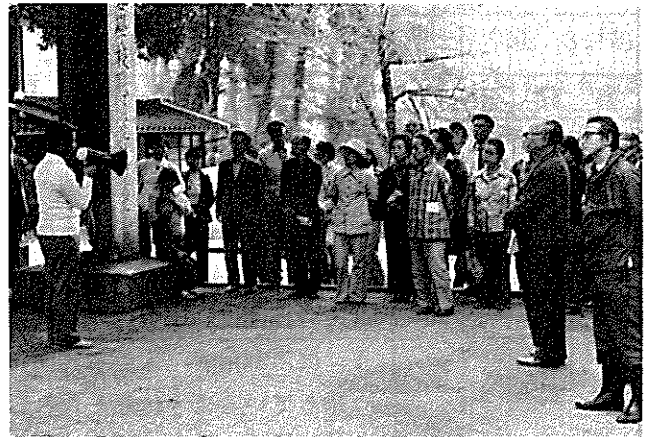
天体観望会	9.20(土)	名月を見る会	当館前庭	当館学芸員	215
見学会 採集会	5.10(土)	野鳥の声を聞く会	鳥取市榑谿公園	〃	38
	5.25(日)	古墳見学会	国府町	〃	40
	6.8(日)	東山陰路の自然と歴史を訪ねる会	出石、玄武洞	〃	55
	9.27(土)	虫の声を聞く会	榑谿公園	〃	38
	10.4(土)	キノコを調べる会	久松山	〃	30
	10.5(日)	佐治村の民俗を訪ねる会	佐治村	〃	24
	10.12(日)	地質見学と採集会	日南町多里	〃	5
	10.25(土)	木の実を調べる会	久松山	〃	17
	10.26(日)	伯耆路の自然と歴史を訪ねる会	泊村、東伯町、名和町	〃	46
標本の名前を調べる会	8.22(金)	標本の名前を調べる会	当館	〃	36
講演会	5.5(月)	「鳥取県の野鳥」	〃	当館学芸員 清末 忠人	200
	5.11(日)	「日本刀の美と歴史」	〃	東博刀剣室長 加島 進	85
	8.10(日)	「郵便の移り変わりと風俗」	〃	通信博物館 橋本 輝夫	60
	10.18(土)	「鉄斎の人と芸術」	〃	鉄斎美術館長 富岡益太郎	70
講座	6.14(土)	「鳥取平野のできるまで」	〃	当館学芸員 山名 巖	17
	6.21(土)	「動物の種とは何か」	〃	鳥取大学教授 江原 昭三	10
	6.28(土)	「野鳥と人生」	〃	当館学芸員 清末 忠人	9
	7.5(土)	「山陰の自然と植物」	〃	県文化財専門委員 生駒 義博	18
	9.6(土)	「山陰の平安仏」	〃	当館学芸員 富川 智	25
	9.13(土)	「山陰の古廃寺」	〃	県文化財専門委員 佐々木 謙	28
	9.20(土)	「古代の美術—ギリシャ彫刻—」	〃	〃 尾崎悌之助	19
	9.27(土)	「鳥取県の古民家」	〃	当館学芸課長 木島 幹世	19
講座 (小、中学生)	8.6(水) 8.7(木)	中学生講座(鳥取平野の成因、鳥取の古墳外)	〃	当館学芸員	59
	8.8(金)	小学生講座(鳥取の明治風俗展見学、講話)	〃	〃	11
映写会	4.13(日)	「カンガルーの一生と種類」「アリの生活」			71
	5.5(月)	「沖繩・八重山の鳥」「天然記念物ライチョウ」			200
	5.11(日)	「日本の刀とよろい」「和鋼風土記」			85
	5.18(日)	〃	〃		188
	6.8(日)	「ニホンザル」「舶来メガネとボウフラ」			40
	7.6(日)	「山の気象」「日本の染織」			38
	7.13(日)	「太陽の活動」「プラズマ・物質第4の状態」			10
	8.2(土)	「蒸気機関車—その百年」			50
	8.4(月)	「日本の蚕糸」			130
	8.17(日)	〃			58
	8.24(日)	「機関車—その百年」			200
	9.7(日)	「波と闘う人々」「グランド・キャニオン」			31
	10.5(日)	「博物館」「南蛮文化の伝来と受容」			50
	10.19(日)	〃 「鉄斎」			125
	10.25(土)	「鉄斎」			120
	10.26(日)	〃			50
	11.3(月)	〃			30
	11.9(日)	〃 「石の文化」「法隆寺」			71
	3.21(日)	「松本城」「グラニオンの産卵」			7

資料貸し出し

貸し出し先	期 間	資 料 名	備 考
倉吉市博物館	50.7.14～9.5	古瓦 2組 13点	「山陰の古瓦展」
岩美町中央公民館	50.7.15～9.10	写真パネル(鳥取県の文化財等)3組	
津ノ井地区公民館	50.11.1～11.4	写真パネル(鳥取県の年中行事等)2組	津ノ井地区文化祭
羽合町教育委員会	50.10.30～11.8	駄菓子(模型)等 5点	羽合町文化祭
島根県教育文化財団	50.9.28～11.10	古墳出土品	「八雲立つ風土記の丘」特別展
三 朝 町	50.11.21～11.25	野鳥の生態写真等 6組	三朝町産業文化祭
家 政 高 校	50.11.6～11.11	写真パネル(鳥取県の年中行事等)2組	家政高校文化祭
小 鴨 小 学 校	50.11.21～12.6	解説パネル等 5点	創立百周年記念事業
福部村教育委員会	50.12.4～12.9	写真パネル・ジオラマ等 91点	福部村産業文化祭



古墳見学会



伯耆路の自然と歴史を訪ねる会

5. 調査研究活動

調 査 研 究

分 野	事 項
地 学	○鳥取層群の堆積環境の変遷についての調査の一環として、八頭郡若桜町脊米地区の化石群集について、その性格を明らかにした。 ○当館保有資料の整理として県産化石資料目録を作成した。
動 物	○鳥取県東部海岸の打ち上げ貝の調査を行った。 ○鳥取県産陸貝の分布と種類について調査し、その全ぼうをまとめた。(研究報告13号) ○当館保有資料の整理として、無脊椎動物のうち貝類資料目録を作成した。
植 物	○県下の帰化植物について、渡来期、分布の調査を行う(郷土と博物館に連載)
考 古	○大山山麓出土の弥生式土器の編年学術調査研究と石器の形態的調査を行なった。(研究報告13号)



民 俗	○県下の漁村12ヶ所を選定し、漁具の収集と漁法および漁村習俗の調査研究に当たった。 ○徒弟制度時代における大工職人の生活と、技術の伝承および工具についての調査研究を行った。
美 術	○特別展「郷土の名刀」「鉄斎」、特別陳列展「元旦」及び常設展出陳のための資料の収集、調査、研究。昭和51年度「松方コレクション展」のための資料調査、研究。 ○江戸時代の鳥取藩絵師、その他の画家とその作品。御用窯、県内各地の陶磁器類、重文金字法華経と紙脊文書の研究、調査を行った。(郷土と博物館)
史 料	○史料展示室テーマ展示「鳥取藩武芸史」、「開国と鳥取藩」のための資料調査、研究。 ○島根県庁、同図書館蔵明治初年鳥取県関係文書、谷田亀寿収集文書の調査、研究。 ○堀文庫の調査、研究。堀文庫の目録作成。(資料調査報告書第三集) ○池田家史料の中の絵図資料群についての調査を行ない、「因・伯の古絵図展」を開催した。

### 博物館活動振興方策研究委嘱事業

文部省の委嘱事業として、博物館活動振興方策研究調査事業を実施した。本事業は、昭和50年度及び51年度の2か年事業であるが本年度の実施概要はつぎのとおりである。

研 究 主 題	展示の態様・形式と展示効果の関係
目 的	博物館の展示に対する利用者の反応を測定するとともに意見を聴取して展示効果を高めるための試案を作成する。
実 施 主 体	鳥取県教育委員会
研 究 委 員 会	教育委員会及び博物館職員並びに学識経験者等 22名
主要研究調査項目	1. 展示利用者の実態把握……年令、回数、地域等。 2. 同上の行動追跡による反応測定調査……関心注意(注目)度と展示態様・形式との関係。 3. 各種団体利用者代表の意見の収録と問題点の抽出。
研究結果の要約	1. 展示利用者(入館者)は、広く各年令層にわたり、社会教育施設としての役割を果たしているように考えられる。しかし団体での利用者は圧倒的に学校関係が多い。 2. 地域的にみると距離の二乗に反比例して減少するが、地域との積極的な結びつきが成功すれば、団体などによる利用も伸びる可能性がある。 3. 博物館の利用が1回や2回でなく絶えず利用される方が望ましい。この点、当館が新しく開館(昭47. 10)して以来、10回以上の利用もあるが、初回である場合が比較的多い。 4. 展示室における行動追跡の結果、注意(注目)される展示形態として動態展示、生態展示、機械的展示、総合的展示、大型展示物などがあげられる。 5. 展示室利用の時間(見学時間)は平均30分であり、関心や注目される展示物および展示形態を選択的に利用する傾向がうかがわれた。 6. 各種団体利用者代表の意見は多岐にわたるが、地方の総合博物館が取扱う分野について巾広い分野を望む声が多かった。 7. 既設の展示について適切な説明や案内が要望された。
問 題 点	1. 全体的にみて、施策化のための基礎的資料を得ることができたが、限られた時期で、調査の対象も少なく統計的処理を行う上での抽出標本にも問題があると考えられるので年間を通じて行う必要を痛感した。 2. 未利用者、いわゆる潜在利用者の博物館に対する意識を知る必要がある。
報 告 書 の 発 行	昭和51年3月
備 考	委嘱研究事業費 881千円

研究報告書等の刊行

名 称	規 格	ページ数	部 数
郷土と博物館第21巻第1号	A 5	30	1,000
“ “ 第2号	“	28	1,000
研究報告 第13号	B 5	55	500
蔵所資料目録(貝類Ⅱ)	A 5	44	500
“ (化石Ⅱ)	“	26	500
博物館年報(昭和49年度)	A 5	26	500
資料調査報告書	“	20	300

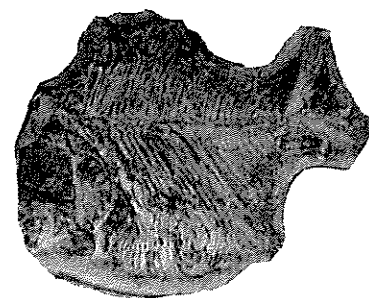
### Ⅲ 博物館資料の概況

1. 博物館資料保有状況(昭和51. 3. 31現在)

区 分	50. 3. 31 現在保有点数	50年度増加数				50.4.1~ 51. 3. 31 減少数	51. 3. 31 現在保有点数
		購 入	寄 贈	採 集	保管換		
保 有 資 料 内 訳	地 学	3,238	1	25	6		3,270
	動 物	11,643	3	40	68		11,754
	植 物	4,149			100		4,249
	考 古	2,492		5	28		2,525
	民 俗	1,019		173			1,192
	美 術	47	1	39		3	90
	史 料	28,314	450	19	補正153		28,936
合 計	51,024	455	301	355	3	52,138	

2. 主な購入資料(昭和50年度)

部 門	資 料 名
地 学	ピクノードス類(pycnodontiformes)ブラジル国セアラ州産(白亜紀)
動 物	貝標本 コシダカオキナエビスガイ
美 術	因久山焼「鉢」



ピクノードス類